

電源管理機能の設定

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2002 Award Software

Power Management Setup

ACPI Suspend Type	[S1(POS)]	Item Help
Power LED in S1 State	[Blinking]	Menu Level ►
Soft-Off by PWR-BTTN	[Instant-off]	
PME Event Wake Up	[Enabled]	
ModemRingOn/WakeOnLAN	[Enabled]	
Resume by Alarm	[Disabled]	
× Date(of Month) Alarm	Everyday	
× Time(hh:mm:ss) Alarm	0 : 0 : 0	
Power On By Mouse	[Disabled]	
Power On By Keyboard	[Disabled]	
× KB Power On Password	Enter	
AC Back Function	[Soft-Off]	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F3:Language F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図5: 電源管理機能の設定

☞ ACPI Suspend Type

- ▶▶ S1/POS ACPI一時停止タイプをS1/POS（パワーオン一時停止）に設定します。（既定）
- ▶▶ S3/STR ACPI一時停止タイプをS3/STR（RAMへ一時停止）に設定します。

☞ Power LED in S1 State

- ▶▶ Blinking スタンドバイモード(S1)では、電源LEDが点滅します。（既定）
- ▶▶ Dual/Off スタンドバイモードでは(S1):
 - a. 単一色のLEDを使用している場合は、LEDがオフになります。
 - b. 二色のLEDを使用している場合は、LEDが別の色に変わります。

☞ Soft-off by PWR-BTTN

- ▶▶ Instant-off 電源ボタンを押すと、すぐに電源が切れます。（既定）
- ▶▶ Delay 4 Sec. 電源ボタンを4秒押すと電源が切れます。4秒以内押すと、一時停止モードに入ります。

☞ PME Event Wake up

- ☼ 有効に設定されていると、PCI-PM動作がPCI-PMコントロール状態にあるシステムを再開します。
- ☼ この機能を使用するには、最低でも5VSBリードで1Aを供給することができるATX電源が必要となります。
 - ▶▶ Disabled PME動作による再開機能を無効にします。
 - ▶▶ Enabled PME動作による再開機能を有効にします。（既定）

☞ Modem Ring On/ WakeOnLAN (When AC Back Function is set to [Soft-Off])

- ☼ マザーボードに“WOL” オンボードコネクタがある場合、Wake On LAN機能は、“ModemRingOn/WakeOnLAN”または“PME Event Wake up”で有効にすることができます。“PME Event Wake up”でこの機能のみを有効にすることができます。
- ☼ モデムを通して呼び出しがあると、システムがスタンバイモードから再開されます。
- ☼ 有効に設定されていると、別のクライアント/サーバーからLANを通して信号を受信した時、システムはLANにより一時停止から再開されます。
 - ▶▶ Disabled Modem Ring On / Wake On LAN機能を無効にします。
 - ▶▶ Enabled Modem Ring On / Wake On LAN機能を有効にします。（既定）

☞ Resume by Alarm

アラームにより再開の項目を有効に設定し、システムの日付/時刻を入力することができます。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定)
- ▶▶ Enabled RTC Alarm Lead To Power Onが有効に設定されている場合、アラーム機能を有効にしてシステム電源を入れます。

日 (月の) アラーム: 毎日、1~31

時間 (hh:mm:ss) アラーム : (0~23) : (0~59) : (0~59)

☞ Power On By Mouse

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定)
- ▶▶ Mouse Click マウスのダブルクリックでシステム電源を入れるよう設定します。

☞ Power On By Keyboard

この機能は、マザーボードのシステム電源がオンになる方法を設定することができます。

“パスワード”オプションでは、最大5文字までのパスワードを設定し、システム電源をオンにすることができます。

“すべてのキー”オプションでは、キーボードのキーを押すとシステム電源がオンになるよう設定します。

“キーボード98”オプションでは、標準キーボード98を使ってシステム電源をオンにします。

- ▶▶ Password 1~5文字の英数字を入力し、キーボード電源オンパスワードを設定してください。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(既定)
- ▶▶ Key board 98 キーボードに“POWERキー”ボタンがある場合、このキーを押してシステム電源をオンにすることができます。

☞ KB Power ON Password

- ▶▶ Enter パスワード(1~5文字の英数字)を入力し、Enterを押してキーボード電源オンパスワードを設定してください。

☞ AC Back Function

- ▶▶ Memory ACスロット前の状態により、システム電源は異なります。
- ▶▶ Soft-Off ACが回復した際、常にオフ状態にします。(既定)
- ▶▶ Full-On ACが回復した際、常にシステム電源を入れます。

PnP/PCIの構成

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2002 Award Software

PnP/PCI Configurations

PCI1/PCI5 IRQ Assignment	[Auto]	Item Help
PCI2 /PCI6 IRQ Assignment	[Auto]	Menu Level ►
PCI3 IRQ Assignment	[Auto]	
PCI4 IRQ Assignment	[Auto]	
↑↓ → ←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F3:Language F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図6:PnP/PCIの構成

☞ PCI1/PCI5 IRQ Assignment

- ▶▶ Auto IRQをPCI 1/ PCI 5に自動的に割り当てます。(既定)
- ▶▶ 3, 4, 5, 7, 9, , 10, 11, 12, 15 3、4、5、7、9、10、11、12、15をPCI1/ PCI5に設定します。

☞ PCI2/PCI6 IRQ Ass ignment

- ▶▶ Auto IRQをPCI 2/ PCI 6に自動的に割り当てます。(既定)
- ▶▶ 3, 4, 5, 7, 9, , 10, 11, 12, 15 3、4、5、7、9、10、11、12、15をPCI2/ PCI6に設定します。

☞ PCI3 IRQ Ass ignment

- ▶▶ Auto IRQをPCI 3に自動的に割り当てます。(既定)
- ▶▶ 3, 4, 5, 7, 9, , 10, 11, 12, 15 3、4、5、7、9、10、11、12、15をPCI3に設定します。

☞ PCI4 IRQ Ass ignment

- ▶▶ Auto IRQをPCI 4に自動的に割り当てます。(既定)
- ▶▶ 3, 4, 5, 7, 9, , 10, 11, 12, 15 3、4、5、7、9、10、11、12、15をPCI4に設定します。

PCの健康状態

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2002 Award Software

PC Health Status

Reset Case Open Status	[Disabled]	
Case Opened	No	
VCORE	1.746V	Item Help
VCC18	1.792V	
+3.3V	3.296V	Menu Level ▶
+ 5V	5.080 V	
+12V	11.904V	
Current CPU Temperature	39°C	
Current CPU FAN Speed	4821 RPM	
Current POWER FAN speed	0 RPM	
Current SYSTEM FAN speed	0 RPM	
CPU Warning Temperature	[Disabled]	
CPU FAN Fail Warning	[Disabled]	
POWER FAN Fail Warning	[Disabled]	
SYSTEM FAN Fail Warning	[Disabled]	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F3:Language F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図7: PCの健康状態

Reset Case Open Status

Case Opened

ケースが閉じている場合は、“Case Opened”に“No”と表示されます。

ケースが開いている場合は、“Case Opened”に“Yes”と表示されます。

“Case Opened”の値をリセットしたい場合は、“Reset Case Open Status”を有効に設定し、CMOSを保存してコンピュータを再起動してください。

Current Voltage (V) VCORE /VCC18/ +3.3V/ +5V / +12V

システム電圧状況を自動的に検出します。

🔊 Current CPU Temperature (°C)

CPUの温度を自動的に検出します。

🔊 Current CPU FAN / POWER / SYSTEM FAN Speed (RPM)

ファン速度を自動的に検出します。

🔊 CPU Warning Temperature

- ▶▶60° C / 140° F CPUの温度を60° C / 140° Fで監視します。
- ▶▶70° C / 158° F CPUの温度を70° C / 70.00° Cで監視します。
- ▶▶80° C / 176° F CPUの温度を80° C / 80.00° Cで監視します。
- ▶▶90° C / 194° F CPUの温度を90° C / 90.00° Cで監視します。
- ▶▶Disabled 現在の温度を監視しません。(既定)

🔊 Fan Fail Warning (CPU / POWER / SYSTEM)

- ▶▶Disabled ファン警告機能を無効にします。(既定)
- ▶▶Enabled ファン警告機能を有効にします。

周波数/電圧の制御

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2002 Award Software

Frequency/Voltage Control

CPU Clock Ratio	[15X]	Item Help
CPU Host Clock Control	[Disable]	Menu Level ►
※CPU Host Frequency(MHz)	100	
※Fixed PCI/AGP Frequency	33/66	
Host/DRAM Clock ratio	[Auto]	
Memory Frequency(MHz)	266	
PCI/AGP Frequency(MHz)	33/66	
DIMM OverVoltage Control	[Normal]	
AGP OverVoltage Control	[Normal]	
CPU Voltage Control	[Normal]	
Normal CPU Vcore	1.75V	
↑↓→←: Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save ESC:Exit F1:General Help F3:Language F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults		

図8: 周波数/電圧の制御

※これらの項目は、“CPU Host Clock Control” が有効に設定されている場合に使用可能となります。

☞ CPU Clock Ratio

CPU割合がロックされていない場合に、CPU割合を設定します。

- ▶▶ 10X~24X CPUクロック割合により異なります。

☞ CPU Host Clock Control

メモ:CMOSセットアップユーティリティの前にシステムがフリーズした場合は、20秒待ってから再起動してください。時間切れになった場合は、システムが再起動し、次の起動時にはCPUの初期設定ホストクロックで実行します。

- ▶▶ Disable CPUホストクロックの制御を無効にします。(既定)
- ▶▶ Enable CPUホストクロックの制御を有効にします。

☞ CPU Host Frequency (MHz)

- ▶▶ 100MHz~355MHz CPUホストクロックを100MHzから355MHzに設定します。

☞ Fixed PCI/AGP Frequency

▶これらのモードを選択し、PCI/AGP周波数を調整することができます。(PCI/AGP周波数とCPU周波数の非同期を選択してください。)

☞ Host/DRAM Clock Ratio

(警告:不当な周波数設定は、システムの正常な起動を妨げます。不当な周波数問題を解決するようCMOSを消去してください。)

- ▶2.0 メモリ周波数 = ホストクロック X 2.0.
- ▶2.66 メモリ周波数 = ホストクロック X 2.66.
- ▶Auto DRAM SPDデータによりメモリ周波数を設定します。(既定)

☞ Memory Frequency (Mhz)

▶CPU Host Frequency (Mhz)により値は異なります。

☞ PCI/AGP Frequency (Mhz)

▶Fixed PCI/AGP Frequencyの項目により、値は異なります。

☞ DIMM OverVoltage Control

- ▶Normal 既定のDIMM電圧です。(既定)
- ▶+0.1V~+.03V DIMM電圧を2.6V~2.8Vで設定します。

☞ AGP OverVoltage Control

- ▶Normal AGP電圧を自動検出します。(既定)
- ▶+0.1V~+.03V AGP電圧を1.6V~1.8Vで設定します。

☞ CPU OverVoltage Control

- ▶Normal CPU電圧を自動検出します。(既定)
- ▶1.775V~1.850V CPU電圧を1.775V~1.850Vで設定します。

☞ Normal CPU Vcore 1.750V

最高性能

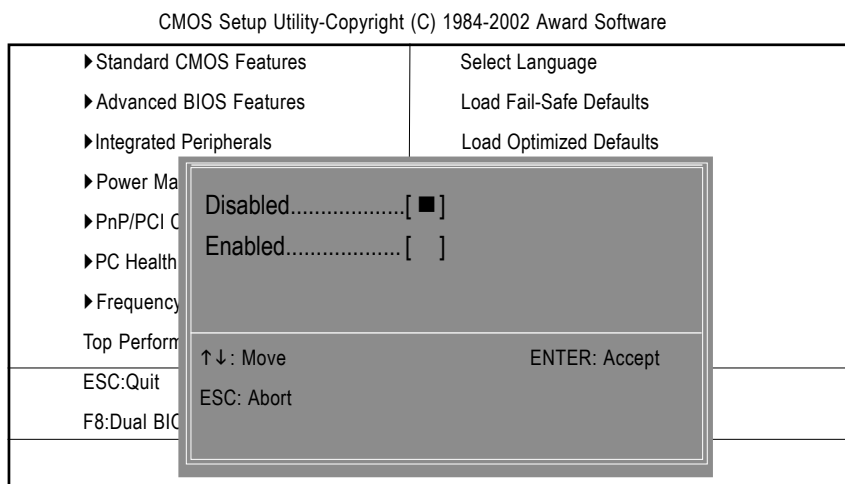


図9: 最高性能

Top Performance

システム性能を最適化したい場合は、“Top Performance”を有効に設定してください。

- ▶▶Disabled この機能を無効にします。(既定)
- ▶▶Enabled 最高性能を有効にします。

言語の選択

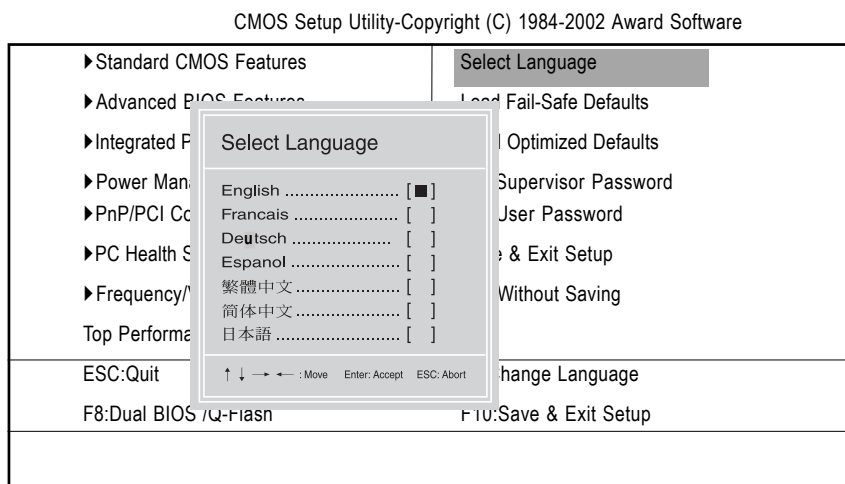


図10: 言語の選択

Select Language

多言語機能は合計7カ国語に対応しています。英語、日本語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、簡体中国語、繁体中国語から選択してください。

フェールセーフ初期値の読み込み

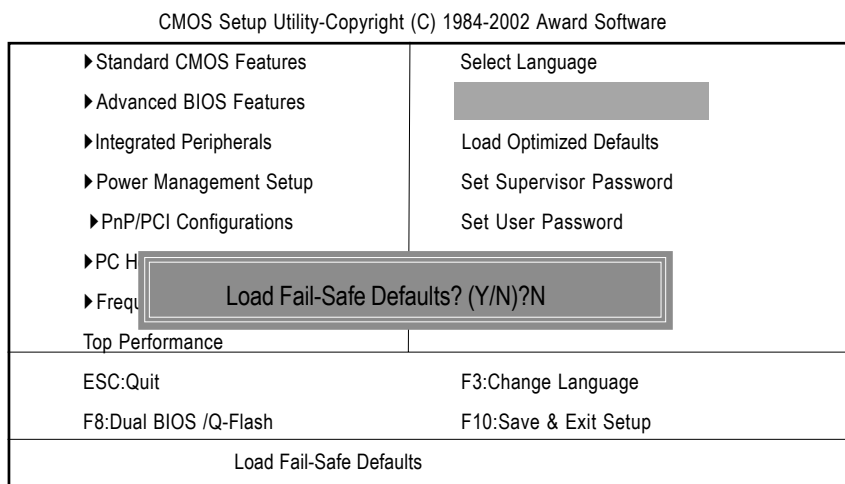


図11: フェールセーフ初期値の読み込み

☞ Load Fail-Safe Defaults

フェールセーフの初期値には、システムパラメータの最も適切な値が含まれており、システム性能を最小化することができます。

最適設定の読み込み

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2002 Award Software

▶Standard CMOS Features	Select Language
▶Advanced BIOS Features	Load Fail-Safe Defaults
▶Integrated Peripherals	Load Optimized Defaults
▶Power Management Setup	Set Supervisor Password
▶PnP/PCI	Load Optimized Defaults? (Y/N)?N
▶PC Health	
▶Frequency/Voltage Control	Exit Without Saving
Top Performance	
ESC:Quit	F3:Change Language
F8:Dual BIOS /Q-Flash	F10:Save & Exit Setup
Load Optimized Defaults	

図12: 最適設定の読み込み

☞ Load Optimized Defaults

BIOSとチップセット機能の工場出荷時の既定値を読み込み、システムに自動検出させる場合にこの項目を選択します。

管理者/ユーザーパスワードの設定

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2002 Award Software

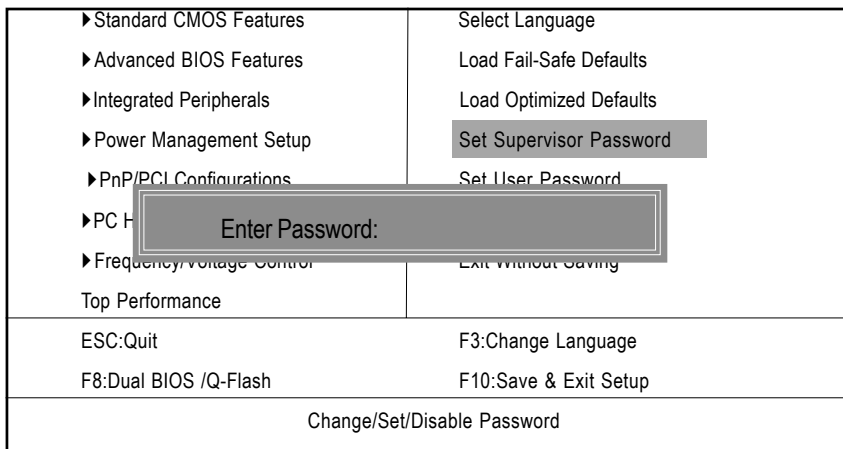


図13：パスワード設定

この機能を選択すると、画面中央に以下のようなメッセージが表示され、パスワード作成手順をアシストしてくれます。

パスワード（最大8文字）を入力し、〈Enter〉を押してください。パスワードを確認するよう要求されます。もう一度パスワードを入力し、〈Enter〉を押してください。〈Esc〉を押して選択を破棄し、パスワードを入力せずに終了することもできます。

パスワードを無効にするには、パスワード入力画面で〈Enter〉を押してください。“PASSWORDDISABLED”というメッセージが画面に表示されます。パスワードを無効にすると、システムは再起動時に自由にセットアップにアクセスすることができるようになります。

BIOSセットアッププログラムでは、2種類のパスワードを設定することができます。SUPERVISOR(管理者)パスワードとUSER(ユーザー)パスワードです。無効に設定されている場合、誰でもすべてのBIOSセットアッププログラムへアクセスすることができます。有効に設定されている場合、BIOSセットアッププログラムの全ての項目へアクセスするには管理者パスワードが必要となり、基本的なアイテムへのアクセスにはユーザーパスワードが必要となります。

拡張BIOS設定機能メニューの“Security Option”で“System”を選択した場合、システム起動時またはセットアップメニューへのアクセス時に、常にパスワード入力が必要となります。

拡張BIOS機能メニューの“Security Option”で“Setup”を選択した場合は、セットアップへアクセスする場合のみパスワード入力が必要となります。

保存 & セットアップの終了

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2002 Award Software

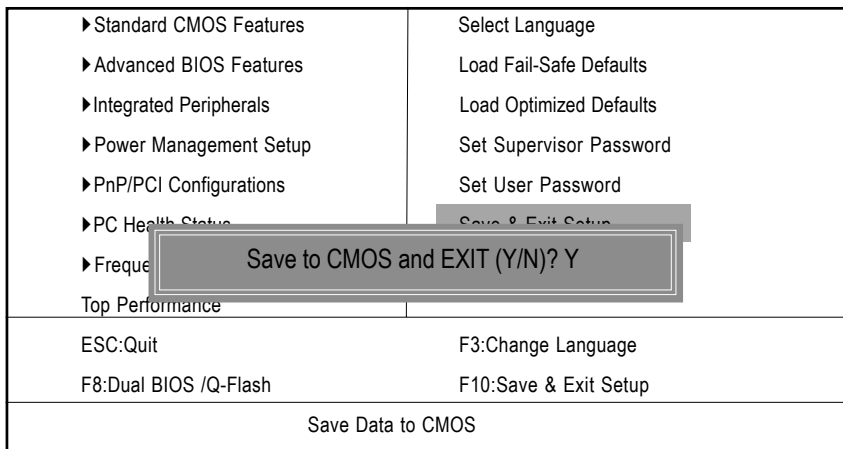


図14: 保存 & セットアップの終了

“Y”を入力するとセットアップをする際、RTC CMOSにセットアップ値を保存します。

“N”を入力すると、セットアップユーティリティに戻ります。

保存せずに終了

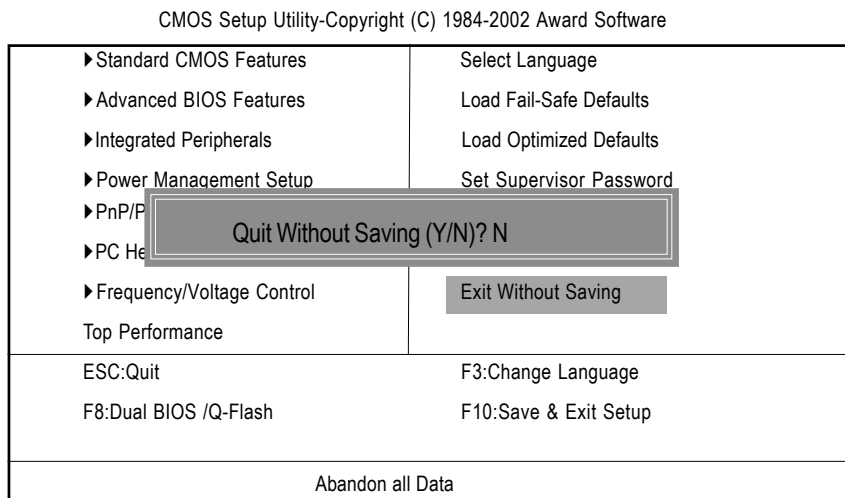


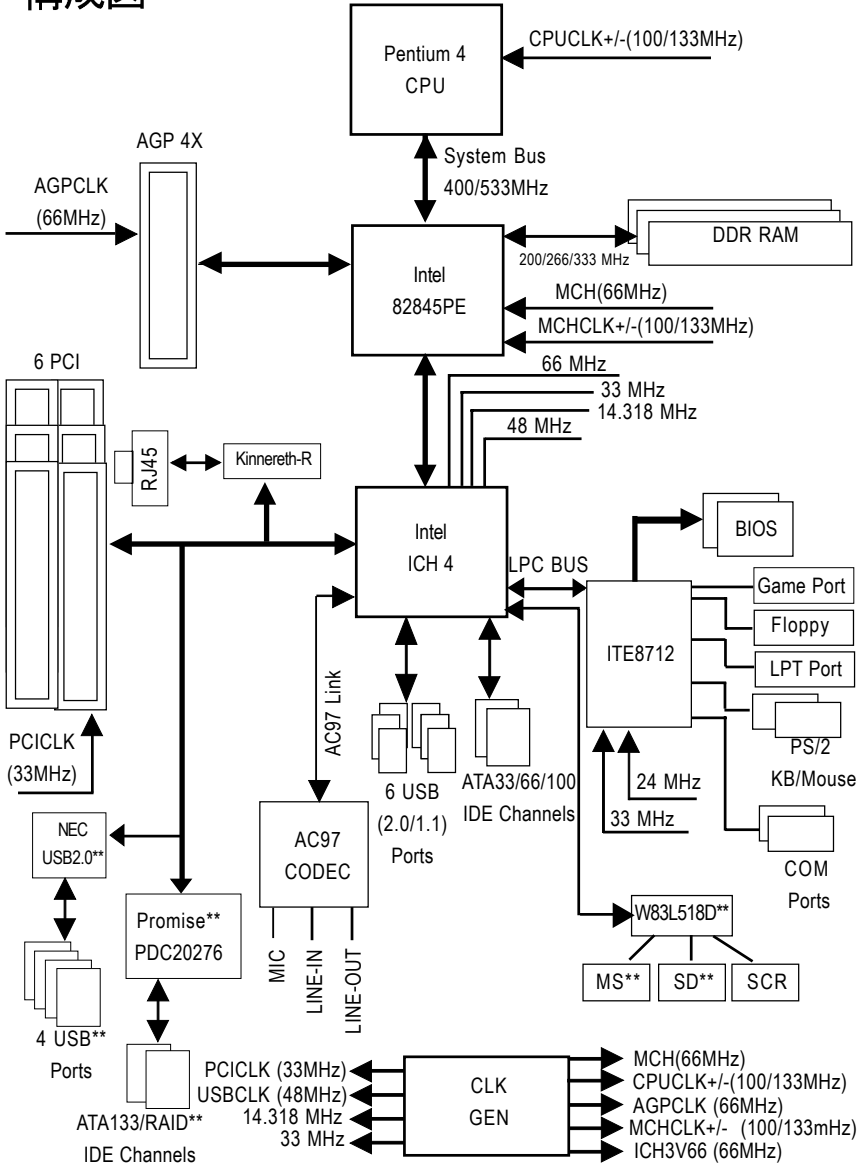
図15: 保存せずに終了

“Y”を入力すると、RTC CMOSに変更を保存せずにセットアップユーティリティを終了します。

“N”を入力すると、セットアップユーティリティに戻ります。

第4章 技術情報

構成図



**印はGA-8PE667 Ultraのみ

BIOS書き換え手順



方法1:

ここではGA-7VTXマザーボード及びFlash841BIOS Flashユーティリティを例に説明を行います。

現在システムDOSモードにある場合は、以下の手順でBIOSを書き換えてください。

BIOS書き換え手順

手順1:

- (1) システムにWINZIPやPKUNZIPなどの解凍ソフトがインストールされていることを確認してください。

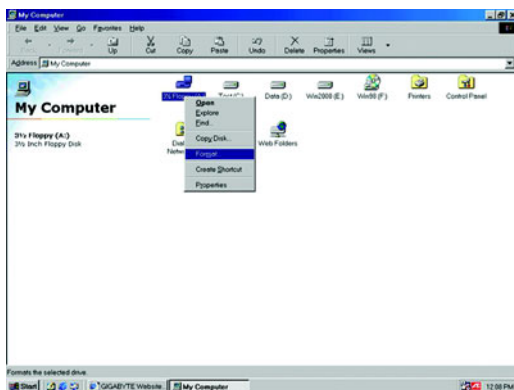
まずWINZIPやPKUNZIPなどのファイル解凍ソフトをインストールしてください。

いずれのソフトも <http://www.shareware.cnet.com> などのシェアウェアサイトからダウンロードすることができます。

手順2:DOS起動ディスクを用意してください。(参照例:Windows 98 0.S.)

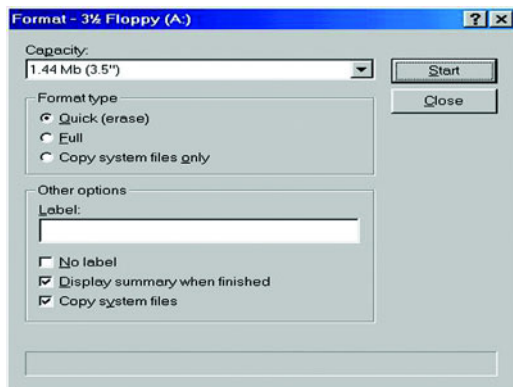
注意:Windows ME/2000ではDOS起動ディスクを作成することができません。

- (1) 空いているフロッピーディスクをドライブに入れてください。ディスクの"書き込み保護"を解除しておいてください。デスクトップの"マイコンピュータ"をダブルクリックし、"3.5インチFD(A)"をクリックして、右クリックで"フォーマット(M)"を選択してください。

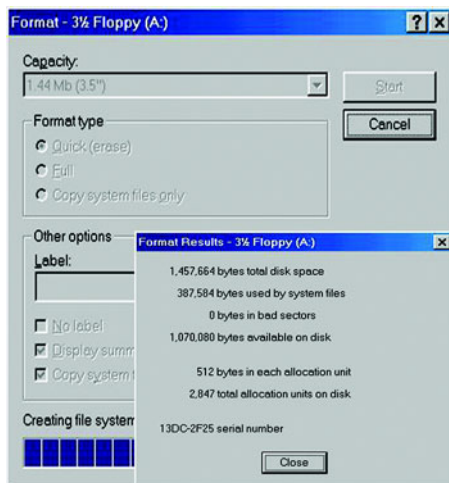


- (2) フォーマットタイプで“クイックフォーマット”を選択し、“結果レポートの表示”と“システムファイルのコピー”を選択し、“開始”を押してください。これでフロッピーディスクがフォーマットされ、必要なシステムファイルがディスクにコピーされます。

注意: この手順を実行すると、フロッピーディスクに含まれるすべてのデータが削除されます。



- (3) フロッピーディスクが完全にフォーマットされたら、“閉じる”を押してください。

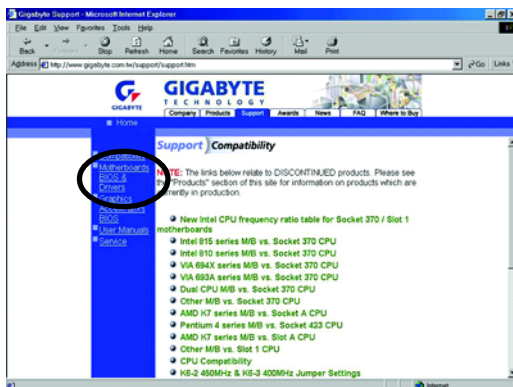


手順3: BIOSとBIOSユーティリティプログラムをダウンロードします。

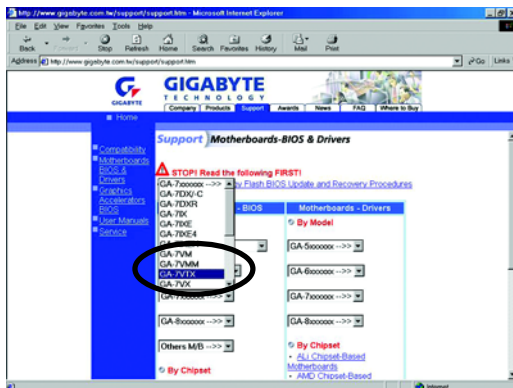
- (1) Gigabyteのウェブサイト <http://www.gigabyte.co.jp> へアクセスし、“サポート”をクリックしてください。



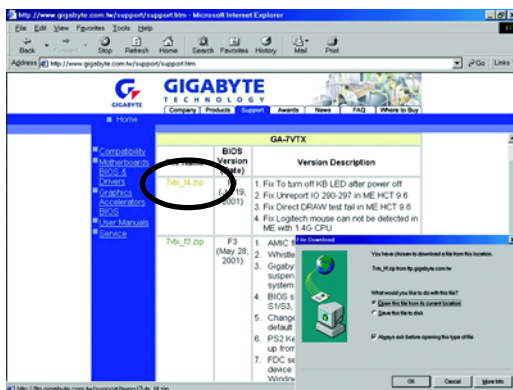
- (2) サポートページで“マザーボードBIOS”をクリックしてください。



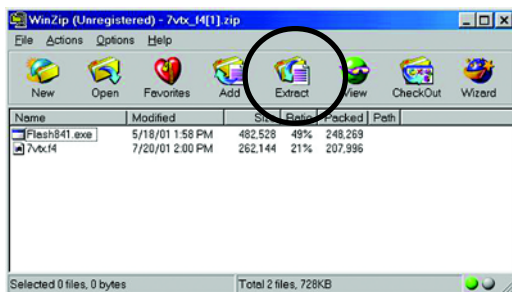
- (3) ここではGA-7VTXマザーボードを例に説明します。モデルまたはチップセットのメニューからGA-7VTXを選択し、BIOS書き換えファイルを取得してください。



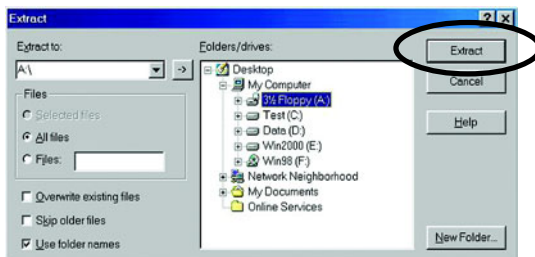
- (4) 適切なBIOSバージョンを選択し(例:F4)、ファイルをダウンロードしてください。ファイルのダウンロード画面が表示されますので、“現在の場所からこのファイルを開く”を選択し、“OK”をクリックしてください。



- (5) 同時に以下のような画面が表示されます。“解凍”ボタンを押してファイルを解凍してください。

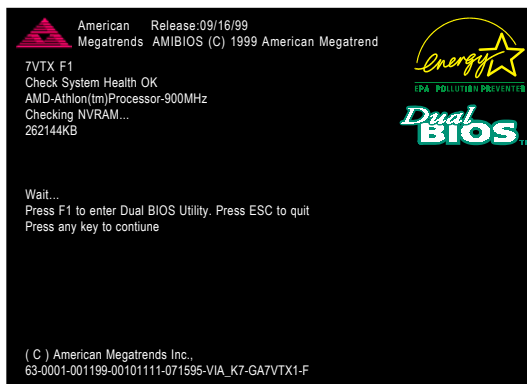


- (6) ダウンロードしたファイルを、手順 2 で記載した空いているフロッピーディスク A に解凍するよう設定し、“解凍”をクリックしてください。



STEP 4: システムがフロッピーディスクから起動しているかどうか確認してください。

- (1) フロッピーディスク（起動プログラムと解凍ファイルが含まれるもの）をフロッピードライブAに挿入し、システムを再起動してください。システムはフロッピーディスクから起動します。システム起動時にキーを押すと、BIOSセットアップのメインメニューに進むことができます。



- (2) BIOSセットアップユーティリティに入ると、以下のような画面が表示されます。矢印を使って“BIOS FEATURES SETUP”の項目を選択してください。

AMIBIOS SIMPLE SETUP UTILITY - VERSION 1.24b (C) 1999 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved	
STANDARD CMOS SETUP BIOS FEATURES SETUP CHIPSET FEATURES SETUP POWER MANAGEMENT SETUP PNP / PCI CONFIGURATION LOAD BIOS DEFAULTS LOAD SETUP DEFAULTS	INTEGRATED PERIPHERALS HARDWARE MONITOR & MISC SETUP SUPERVISOR PASSWORD USER PASSWORD IDE HDD AUTO DETECTION SAVE & EXIT SETUP EXIT WITHOUT SAVING
ESC: Quit ↑↓←→ : Select Item (Shift)F2 : Change Color F5: Old Values F6: Load BIOS Defaults F7: Load Setup Defaults F10: Save & Exit	
Time, Date , Hard Disk Type...	

- (3) <Enter>を押し、“BIOS FEATURES SETUP”メニューに入ってください。矢印を使って、“1st Boot Device”を選択し、“Page Up”または“Page Down”キーで“Floppy”を選択してください。

AMIBIOS SETUP - BIOS FEATURES SETUP	
(C) 2001 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved	
1st Boot Device : Floppy	
2nd Boot Device : IDE-0	
3rd Boot Device : CDROM	
S.M.A.R.T. for Hard Disks : Disabled	
BootUp Num-Lock : On	ESC: Quit ↑↓←→: Select Item
Floppy Drive Seek : Disabled	F1 : Help PU/PD/+/- : Modify
Password Check : Setup	F5 : Old Values (Shift)F2: Color
	F6 : Load BIOS Defaults
	F7 : Load Setup Defaults

- (4) 前の画面に戻るには、<ESC>を押してください。矢印を使って“SAVE &EXIT SETUP”の項目を選択し、<Enter>を押してください。システムは“SAVE to CMOS and EXIT (Y/N)?”と表示します。“Y”または<Enter>キーで確定してください。システムが自動的に再起動し、次の起動時に新しいBIOS設定が有効となります。

AMIBIOS SIMPLE SETUP UTILITY - VERSION 1.24b	
(C) 2001 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved	
STANDARD CMOS SETUP	INTEGRATED PERIPHERALS
BIOS FEATURES SETUP	HARDWARE MONITOR & MISC SETUP
CHIPSET FEATURES SETUP	SUPERVISOR PASSWORD
POWER MANAGEMENT SETUP	USER PASSWORD
PNP / PCI CONF	Save to CMOS and EXIT (Y/N)? Y
LOAD BIOS DEFAULTS	SAVE & EXIT SETUP
LOAD SETUP DEFAULTS	EXIT WITHOUT SAVING
ESC: Quit ↑↓←→ : Select Item (Shift)F2: Change Color F5: Old Values	
F6: Load BIOS Defaults F7: Load Setup Defaults F10: Save & Exit	
Save Data to CMOS & Exit SETUP	

手順 5:BIOSの書き換え

- (1) システムがフロッピーディスクから起動した後、“A:\ dir/w” と入力し、“Enter” を押してフロッピーAの内容を確認してください。次にA:\の後に“BIOS flash utility” と “BIOS file” と入力してください。この場合、“A:\> Flash841 7VTX.F4” と入力し、<Enter>を押す必要があります。

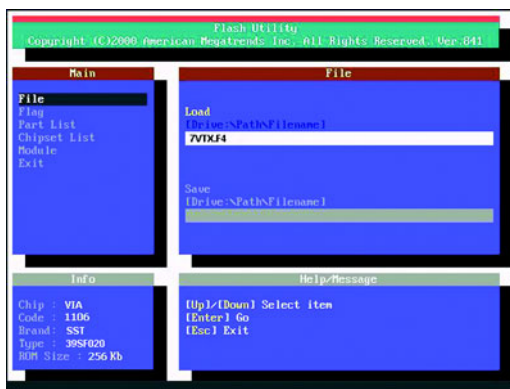
```
Starting Windows 98...

Microsoft(R) Windows98
© Copyright Microsoft Corp 1981-1999

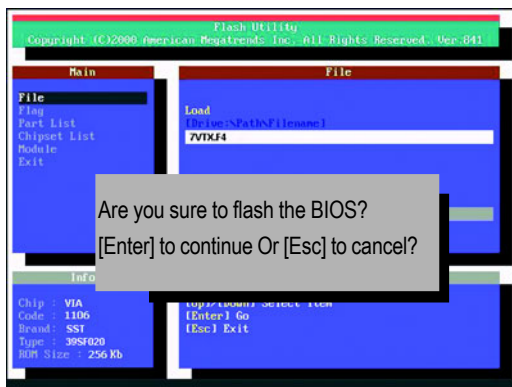
A:\> dir/w
Volume in drive A has no label
Volume Serial Number is 16EB-353D
Directory of A:\
COMMAND.COM    7VTX.F4    FLASH841.EXE
                3 file(s)   838,954 bytes
                0 dir(s)    324,608 bytes free

A:\> Flash841 7VTX.F4
```

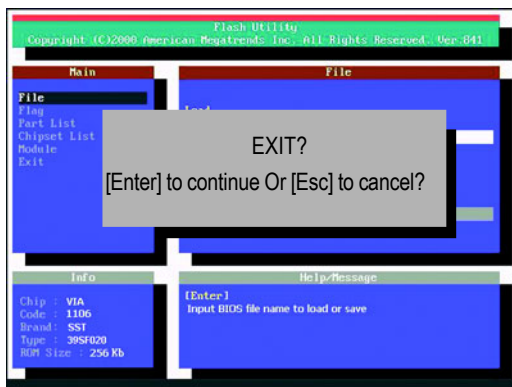
- (2) 以下の書き換えユーティリティメインメニューが表示されます。<Enter>を押すと、選択されているアイテムが画面右上のモデル名に表示されます。この後、<Enter>を押し、BIOS書き換えユーティリティを開始してください。



- (3) “BIOSを書き換えますか?”というメッセージが表示されます。<Enter>を押して続けるか、または<Esc>を押してキャンセルしてください。
注意:BIOS更新中はシステム電源を切らないでください。BIOSが破壊され、システムが全く作動しなくなります。



- (4) BIOSの書き換え完了です。<Esc>キーを押して書き換えユーティリティを終了してください。



手順6:BIOS初期値の読み込み

通常、BIOSが更新された後、システムは全てのデバイスを再検出します。よって、BIOSが更新された後は、BIOSの初期値を読み込むことを推奨します。これは、書き換え後にすべてをリセットするために非常に重要な操作です。

- (1) フロッピードライブからディスクを取り出し、システムを再起動してください。起動画面がマザーボードのモデルと現在のBIOSバージョンを提示します。



- (2) 起動中にキーを押し、もう一度BIOSセットアップに入ってください。矢印を使って“LOAD SETUP DEFAULTS”の項目を選択し、<Enter>を押してください。システムは“セットアップの初期値を読み込みますか(Y/N)?”と質問します。“Y”または<Enter>キーで確定してください。

AMIBIOS SIMPLE SETUP UTILITY - VERSION 1.24b	
(C) 2001 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved	
STANDARD CMOS SETUP	INTEGRATED PERIPHERALS
BIOS FEATURES SETUP	HARDWARE MONITOR & MISC SETUP
CHIPSET FEATURES SETUP	SUPERVISOR PASSWORD
POWER MANAGEMENT SETUP	
PNP / PCI CONFIGURATION	
LOAD BIOS DEFAULTS	SAVE & EXIT SETUP
LOAD SETUP DEFAULTS	EXIT WITHOUT SAVING
ESC: Quit ↑↓←→ : Select Item (Shift)F2 : Change Color F5: Old Values	
F6: Load BIOS Defaults F7: Load Setup Defaults F10: Save & Exit	
Load Setup Defaults	

- (3) 矢印を使って“SAVE &EXIT SETUP”の項目を選択し、<Enter>を押してください。システムは“SAVE to CMOS and EXIT (Y/N)?”と表示します。“Y”または<Enter>キーで確定してください。システムが自動的に再起動し、次の起動時に新しいBIOS設定が有効となります。

AMIBIOS SIMPLE SETUP UTILITY - VERSION 1.24b (C) 2001 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved	
STANDARD CMOS SETUP	INTEGRATED PERIPHERALS
BIOS FEATURES SETUP	HARDWARE MONITOR & MISC SETUP
CHIPSET FEATURES SETUP	SUPERVISOR PASSWORD
POWER MANAGEMENT SETUP	USER PASSWORD
PNP / PCI CONF	SAVE to CMOS and EXIT (Y/N)? Y
LOAD BIOS DEFAULTS	SAVE & EXIT SETUP
LOAD SETUP DEFAULTS	EXIT WITHOUT SAVING
ESC: Quit ↑↓←→ : Select Item (Shift)F2 : Change Color F5: Old Values	
F6: Load BIOS Defaults F7: Load Setup Defaults F10: Save & Exit	
Save Data to CMOS & Exit SETUP	

- (4) これでBIOS書き換え手順の完了です。

方法 2:

デュアルBIOS / Q-Flashの紹介

A. Dual BIOSテクノロジーって何?

Dual BIOSとは、マザーボードにメインBIOSとバックアップBIOSの2種類のシステムBIOS (ROM) が搭載されていることを指します。通常はメインBIOSが作動します。メインBIOSが破壊されたり、問題が発生した場合は、バックアップBIOSがこれに代わって作動します。つまり、BIOSには何もなかったかのように、PCが正常に作動することとなります。

B. Dual BIOSとQ-Flashユーティリティの使い方は?

- a. コンピュータの電源を入れた後、POST (パワーオン自動点検) 中にを押すと、Award BIOS CMOSセットアップに入ることができます。

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2002 Award Software

<ul style="list-style-type: none"> ▶Standard CMOS Features ▶Advanced BIOS Features ▶Integrated Peripherals ▶Power Management Setup ▶PnP/PCI Configurations ▶PC Health Status ▶Frequency/Voltage Control ▶Load Optimized Defaults ▶BIOS Security ▶M.I.T. (Miscellaneous Item Test) ▶Top Performance 	<ul style="list-style-type: none"> Select Language Load Fail-Safe Defaults Load Optimized Defaults Set Supervisor Password Set User Password Save & Exit Setup
<div style="border: 2px solid gray; padding: 5px; display: inline-block;">Enter Dual BIOS / Q-Flash Utility (Y/N)? Y</div>	
ESC:Quit	F3:Change Language
F8:Dual BIOS /Q-Flash	F10:Save & Exit Setup

b. Dual BIOS/Q-Flashユーティリティ

Dual BIOS / Q-Flash Utility V845.4MF3 (C) 2001, GIGA-BYTE Technology Co., LTD.	
Wide Range Protection	:Disabled
Halt On BIOS Defects	:Disabled
Auto Recovery	:Enabled
Boot From	:Main BIOS
BIOS Recovery	:Main to Backup
F3: Load Default	F5: Start BIOS Recovery
F7: Save And Restart	F9: Exit Without Saving
F8: Update BIOS from disk	F10: Recovery from Disk
Use <Space> key to toggle setup	

c. Dual BIOSアイテムの説明:

Wide Range Protection: Disabled(Default), Enabled

状態 1:

メインBIOSに故障が発生した場合 (ESCDの更新失敗、チェックサムエラーやリセットなど)、電源が入り、オペレーションシステムが読み込まれる直前に、Wide Range Protectionが"Enable"に設定されていると、PCがバックアップBIOSから起動します。

状態 2:

ユーザーがシステムに変更を加えた後、周辺機器カード (SCSIカードやLANカードなど)のROM BIOSがシステム再起動の要求を発した場合、起動BIOSはバックアップBIOSへ変更されます。

Halt On BIOS Defects : Disabled(Default), Enabled

BIOSにチェックサムエラーが発生した場合は、メインBIOSにWIDE RANGE PROTECTIONエラーが発生し、Halt On BIOS Defectsが有効に設定されている場合、PCは起動画面にメッセージを表示し、システムはユーザーからの指示を待つために一時停止します。

自動復元の場合 :Disabled、<or the other key to continue.>と表示されます。

自動復元の場合 :Enabled、<or the other key to Auto Recover.>と表示されます。

Auto Recovery : Enabled(Default), Disabled

メインBIOSまたはバックアップBIOSにチェックサムエラーが発生した場合、使用中のBIOSは自動的にチェックサムエラーから回復します。(BIOSセットアップのPower Management SetupでACPI Suspend Typeが“RAMに一時停止と設定”と設定されている場合、自動復元は自動的に有効となります。)(BIOS設定に入りたい場合は、起動画面が表示されたらキーを押してください。)

Boot From : Main BIOS(Default), Backup BIOS

状態 1:

ユーザーはメインBIOSとバックアップBIOSからの起動を設定することができます。

状態 2:

メインBIOSまたはバックアップBIOSのひとつでエラーが発生した場合、“Boot From :Main BIOS (Default)” が灰色になり、ユーザーにより変更できなくなります。

BIOS Recovery : Main to Backup

自動復元メッセージ:

BIOS Recovery: Main to Backup

メインBIOSが正常に作動し、自動的にバックアップBIOSを復元します。

BIOS Recovery: Backup to Main

バックアップBIOSが正常に作動し、自動的にメインBIOSを復元します。

(この自動復元ユーティリティはシステムにより自動設定され、ユーザーによる変更はできません。)

C. Q-Flashユーティリティって何?

Q-FlashユーティリティはBIOSモードでBIOSをアップデートするためのプレO.S. BIOS書き換えユーティリティです。OSでの操作が必要なくなります。

D. Q-Flashの使い方

F3:初期値の読み込み 現在のBIOS初期値を読み込みます。 ます。	F5:BIOS復元の開始 F5を押すと新しいBIOSバージョンを復元し
F7:保存して再起動 変更された設定を保存し、 コンピュータを再起動します。	F9:保存せずに終了 変更を保存せずに終了します。
F8:ディスクからBIOSを更新 起動BIOSを更新します。 更新します。	F10:ディスクから復元 別のBIOS（起動BIOSとは異なるもの）を



DualBIOS™ テクノロジーのFAQ

GIGABYTE Technologyは新しいシステムBIOS、DualBIOS技術を発表しました。GIGABYTEによる長年の革新により、GA-60XETシリーズ マザーボードで最新の“付加価値”機能が実現されました。今後のGIGABYTEマザーボードもこの機能に対応することになります。

DualBIOS™って何?

DualBIOSを搭載したGIGABYTEマザーボードには、2つのBIOSチップが用意されています。単純明快に、ひとつを“メインBOIS”、もうひとつを“バックアップBIOS”（ホットスペア）と呼ぶことにします。メインBIOSにエラーが発生すると、ほぼ自動的にバックアップBIOSが作動してシステムが起動されます。ほぼ自動的に、そして時間のロスもなく交換が行われます!問題がBIOSの書き換え失敗であっても、ウィルスや致命的なメインBIOSチップの破壊などであっても、結果は同じです。バックアップBIOSがほぼ自動的にシステムを保護してくれます。

I. 質問: Dual BIOS™ テクノロジーって何?

答え:

Dual BIOSテクノロジーはGiga-Byte Technologyによる特許技術です。この技術の概念は、重複とフォールトトレランスの理論に基づいています。Dual BIOS™ テクノロジーは、簡単に言えば2つのBIOS (ROM)が1つのマザーボードに統合されている技術です。ひとつはメインBIOS、もうひとつはバックアップBIOSです。メインボードは通常メインBIOSで作動しますが、メインBIOSが破壊されたり、問題が発生した場合、バックアップBIOSが自動的にシステム起動時に代用されるよう設計されています。PCはメインBIOSが破壊される前と全く同じ状態で作動し、ユーザーは何の変化もなくPCを使用することができます。

II. 質問: なぜDual BIOS™ テクノロジーの必要性があるのでしょうか?

答え:

最近のシステムにはBIOSエラーが増えています。最も頻繁に起こるものには、ウイルスによる侵害、BIOS更新の失敗、BIOS (ROM) チップ自体の劣化などが挙げられます。

1. システムBIOSを攻撃し、破壊してしまう新しいコンピュータウイルスが発見されています。こうしたウイルスは、BIOSコードを破壊し、PCを不安定にさせたり、正常な起動ができなくなったりします。
2. 電源のロス、変動などが起きたり、ユーザーがシステムをリセットしたり、システムBIOS更新中に電源が切れたりした場合、BIOSデータが破壊されることがあります。
3. また、ユーザーが不当なBIOSファイルで誤ってメインボードを更新した場合、システムは正常に起動できない場合があります。このような操作は、操作中や起動時にシステムをフリーズさせる原因となります。
4. 書き換えROMのファイルサイクルは電気性質により制限されます。最新のPCはプラグ&プレイBIOSを搭載しており、定期的に更新されるようになっています。頻繁に周辺機器を変更される場合は、書き換えROMに破損をきたすことがあります。Giga-Byte Technologyの特許取得済みDual BIOS™ 技術は、起動時のフリーズやBIOSデータの損失などを最小限にとどめることができます。この新技術は、BIOSのエラーによるシステムダウンや修理費用などを解決することができます。

III. 質問: DualBIOS™ 技術はどのように働くのですか？

答え:

1. DualBIOS™ 技術は、起動過程における幅広い保護を提供します。POST中、ESCD更新や、PnP検出/割当まで、BIOSを保護することができます。
2. DualBIOS™はBIOSの自動復元を提供します。起動時に使われる最初のBIOSが完了できない場合、またはBIOSチェックサムエラーが発生した場合でも、起動は可能です。DualBIOS™ユーティリティでは、メインBIOSまたはバックアップBIOSの破損時に、“自動復元”オプションがDualBIOS™ 技術を使って正常なBIOSを起動させ、破壊したBIOSを自動的に修復することができます。
3. DualBIOS™はBIOSの手動復元を提供します。DualBIOS™技術には内蔵書き換えユーティリティが含まれており、バックアップからメインへ、またはその逆にシステムBIOSを書き換えることができます。OSのユーティリティプログラムを使用する必要はありません。
4. DualBIOS™には一方方向への書き換えユーティリティが含まれています。内蔵の一方書き換えユーティリティは、破壊されたBIOSが誤って正しいBIOSと認識され、正しいBIOS（メインまたはバックアップ）を書き換えてしまわないよう保護します。こうして、正しいBIOSが失われることを防ぎます。

IV. 質問: どんな場合にDualBIOS™ テクノロジーが必要なのでしょうか？

答え:

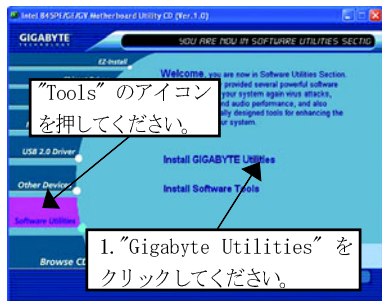
1. コンピュータウィルスが威力を増している今日、どのユーザーにもDualBIOS™ 技術は必要です。
システムBIOSを破壊してしまう新しいBIOSタイプのウィルスは毎日のように発見されています。市販されているウィルス除去プログラムなどは、このタイプのウィルスに対する保護を含んでいません。そこで、DualBIOS™ 技術があなたのPCを保護するための唯一のソリューションを提供します。
状況 I) 悪質なコンピュータウィルスがシステムBIOS全体を消去してしまうことがあります。これまでの単一システムBIOS PCの場合、PCを修理に出さなければ正常な操作はできません。
状況 II) DualBIOS™ ユーティリティで“自動復元”オプションが有効に設定されていれば、ウィルスがシステムBIOSを破壊した場合でも、BIOSは自動的にシステムを再起動し、メインBIOSを修復することができます。
状況 III) ユーザーはメインシステムBIOSからの起動をオーバーライドできます。バックアップBIOSからの起動順序を変更するために、DualBIOS™ユーティリティに入ることができます。

2. BIOSの更新中または更新後にDualBIOS™がメインBIOSの破損を検出した場合、自動的にバックアップBIOSが代わって起動に使用されます。更に、起動時にメインとバックアップBIOSのチェックサムを確認します。DualBIOS™ 技術はシステム起動時にメインBIOSとバックアップBIOSのチェックサムを確認し、BIOSが正しく作動するよう図ります。
3. ベテランユーザーも2つのBIOSバージョンを持つメインボードを大いに活用することができます。システム性能に合ったバージョンのBIOSを選択して使用することができます。
4. PCやワークステーション/サーバーにより高い柔軟性を提供します。DualBIOS™ユーティリティでは、“Halt On When BIOS Defects”のオプションを選択し、メインBIOSが破壊された場合に警告メッセージと共にシステムを停止するよう設定することができます。ほとんどのワークステーション/サーバーは、サービス機能を損なわないよう、安定した継続的な運営が必要となります。この場合、正常な起動時にシステムが停止しないよう、“Halt On When BIOS Defects”メッセージは無効となります。更に、Giga-ByteのDualBIOS™技術は、今後BIOS用の追加容量が必要になった場合、デュアル2MビットBIOSからデュアル4MビットBIOSへの更新が可能となる機能も提供しています。



方法3:

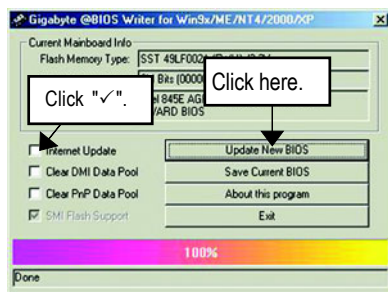
DOS起動ディスクがない場合は、Gigabyte @BIOSTM を使ってBIOSを書き換えることを推奨します。



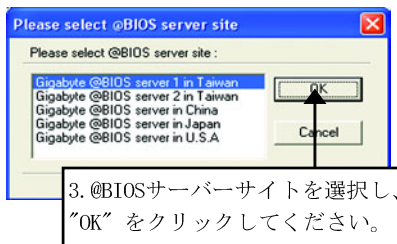
(1)



(2)



(3)



(4)

方法と手順:

- I. インターネットでBIOSを更新する場合:
 - a. "Internet Update"のアイコンをクリックしてください。
 - b. "Update New BIOS"アイコンをクリックしてください。
 - c. @BIOS™サーバーを選択してください。
 - d. 正しいマザーボードの名称を選択してください。
 - e. システムは自動的にBIOSをダウンロードし、更新します。

II. インターネットを通してBIOSを更新しない場合:

- a. "Internet Update"のアイコンをクリックしないでください。
- b. "Update New BIOS"アイコンをクリックしてください。
- c. 古いファイルを開く際に、ダイアログボックスで"All Files"を選択してください。
- d. BIOS解凍ファイルを探し、インターネットなどからダウンロードしてください。(例:8PE667 Ultra.F1)
- e. 指示に従い、更新プロセスを完了してください。

III. BIOSの保存

最初に、ダイアログボックスに"Save Current BIOS"のアイコンが表示されます。これは、現在のBIOSバージョンを保存することを意味します。

IV. サポートされているマザーボードとFlash ROMの確認:

最初に、ダイアログボックスに>About this program"のアイコンが表示されます。どのマザーボードが使用されており、どのブランドのFlash ROMがサポートされているかを確認することができます。

メモ:

- a. 方法 Iで、2つ以上の対応マザーボードモデル名が表示された場合、もう一度マザーボードのモデル名確認してください。間違ったモデル名を選択すると、システムが起動できなくなることがあります。
- b. 方法 IIで、BIOS解凍ファイルのマザーボードモデル名がお使いのマザーボードと同じであることを確認してください。間違ったモデル名を選択すると、システムが起動できなくなることがあります。
- c. 方法 Iで、必要なBIOSファイルが@BIOS™サーバーに見つからない場合、Gigabyteのウェブサイトでダウンロードし、方法 IIに従って更新してください。
- d. 更新中の中断などは、システムを起動できなくなりますのでご注意ください。

@ BIOSの紹介

Gigabyte が Windows BIOS のライブアップデートユーティリティ @ BIOS を発表



ご自分でBIOSを更新したことがありますか?それとも、BIOSが何であるかは分かっているが、自分で更新するのは気が引けますか?それとも、最新のBIOSに更新する必要は特になし、更新の方法が分からないからでしょうか。

もし他人とは違って、BIOSの更新経験がある場合でも、更新には極めて時間がかかるはずですが、面倒な作業は誰でもいやなはず。まずウェブサイトから別のBIOSをダウンロードし、オペレーションシステムをDOSモードに切り替えます。次に別のユーティリティを使ってBIOSを更新します。このような作業は、特に面白い作業ではありません。それに、BIOSのソースコードを正しくディスクに保存しておかなければ、万一間違ったBIOSを更新してしまった場合は後戻りができなくなります。

そこで誰もが、BIOSの更新作業をより簡単に行うために、マザーボードの製造元がどうかしてくれたら良いのに、と思うはずですが、さて、そこで登場したのがこれ！Gigabyteが初めてのWindows BIOSライブアップデートユーティリティ @ BIOSを発表しました。これは、極めてスマートなBIOS更新ソフトウェアです。インターネットからBIOSをダウンロードし、更新を代行してくれます。また、他のBIOS更新ソフトウェアとは異なり、これはWindowsユーティリティです。“@BIOS”があれば、クリックひとつでBIOS更新が完了します。

更に、どのマザーボードを使用している場合でも、Gigabyteの製品*でさえあれば、@BIOSはBIOSの更新を代行します。このユーティリティは正しいメインボードモデルを検出し、それに合ったBIOSを選択してくれます。さらに最も適切なGigabyteのFTPサイトからBIOSをダウンロードします。“Internet Update”を使ってBIOSをダウンロードし、直接更新するか、または現在のBIOSのバックアップを維持したい場合は、“Save Current BIOS”を選択することもできます。Gigabyteと@BIOSを使い、賢くBIOSを更新しましょう。これで、間違ったBIOSの更新の心配もなく、容易にBIOSを管理することができます。Gigabyteの革命的製品が、マザーボード業界を立て直します。

こんなに素晴らしいソフトウェア、その価格は?信じられないことに、なんと無料です！Gigabyteのマザーボードをお買い上げの方には、もれなくこの素晴らしいソフトウェアがドライブCDに搭載されています。まずインターネットに接続し、Gigabyte @BIOSからインターネットBIOS更新を行ってください。

Easy Tune™ 4の紹介

GigabyteがWindowsベースのオーバークロック ユーティリティ EasyTune™ 4 をご紹介

EasyTune 4は次世代への階段を上る後継者です。



コンピュータの分野において最もよくある問題のひとつが“オーバークロック”です。多くのユーザーが経験済みなのでしょうか。こたえは“No”です。“オーバークロック”は非常に困難とされており、様々なテクニカル ノウハウを必要とします。“オーバークロック”は一部のマニアにのみ行われる特別なスキルとも言われます。さて、“オーバークロック”のエキスパートについては、一体どれが本当なのでしょうか。エキスパートのユーザーは長時間と費用をかけて

様々なハードウェアやBIOSツールを使って“オーバークロック”を試みます。こうした技術を身に付けてさえも、“オーバークロック”システムの安定性と安全性については未知なことが多いのが事実です。しかし、Gigabyteにより発表されたWindowsベースのオーバークロック ユーティリティ “EasyTune 4”があれば、これまでとは話が違います。このWindowsベースのユーティリティは、“オーバークロック”の規則を完全に覆します。これは初めてのWindowsベースのオーバークロックユーティリティであり、通常及びベテランユーザーの使用に適しています。ユーザーは“Easy Mode”または“Advanced Mode”のいずれかを選択し、オーバークロックにチャレンジすることができます。“Easy Mode”を選択すると、“Auto Optimize”をクリックするだけですぐにCPUのオーバークロックが可能となります。ソフトウェアがCPU速度を自動的にオーバードライブし、結果がコントロールパネルに反映されます。また、ユーザー自らが“オーバークロック”を調整することも可能です。“Advanced Mode”をクリックし、“Sport Drive”クラスのオーバークロック ユーザーインターフェースをお楽しみください。“Advanced Mode”では、ユーザーが自らシステムバス/AGP/メモリなどを徐々に変更し、最終的なシステムパフォーマンスを得ることができます。この変更は、Gigabyteのマザーボードと連携して作動します。更に、これまでのオーバークロック方法と異なり、EasyTune 4はユーザーによるBIOSやハードウェアスイッチ、ジャンパー設定の変更を必要としません。簡単なステップだけで“オーバークロック”を完了することができます。ソフトウェアやハードウェアに何も変更を加える必要がないため、極めて安全な“オーバークロック”であると言えます。システム制限のあるPCでEasyTune 4を使用する場合でも、コンピュータを再起動するだけでオーバークロックによる副作用はすべて解決されます。更に、EasyTune 4で優れたシステムパフォーマンス速度がテストされた場合、この設定を“保存”し、次回に“読み込む”ことも可能です。Gigabyte EasyTune 4は“オーバークロック”技術を新しい世代へと移行したと言えます。この素晴らしいソフトウェアは、現在GigabyteマザーボードにバンドルされてドライブCDで提供されています。“EasyTune 4”のテストドライブを作成し、様々な機能を発見してください。

*一部のGigabyte製品はEasyTune 4に完全対応していません。対応製品についてはウェブサイトをご覧ください。

*すべての“オーバークロック”操作について、ユーザーは自らそのリスクを負担することとなります。Gigabyte Technologyはお使いのプロセッサ、マザーボード、その他の部品に関する破損や不安定性などについて一切の責任を負いかねます。

改訂履歴 2-/4-/6-チャンネルオーディオ機能の紹介

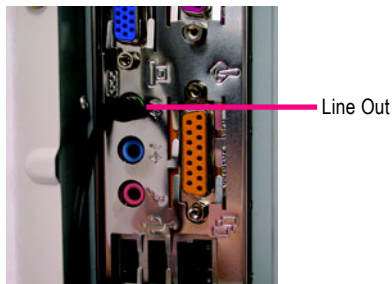
Windows 98SE/2K/ME/XPへのインストールはいたってシンプルです。以下の手順でこの機能をインストールしてください。

ステレオスピーカーの接続と設定:


より良い音響効果を得るには、スピーカーをアンプに接続してご使用になることをお勧めします。

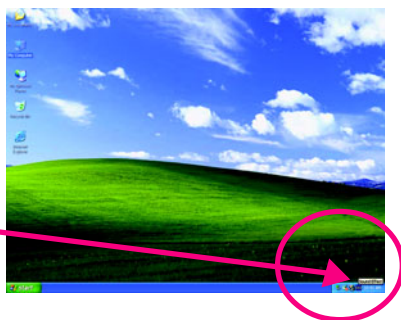
手順1:

ステレオスピーカーまたはイヤフォンを“Line Out”へ接続してください。



手順2:

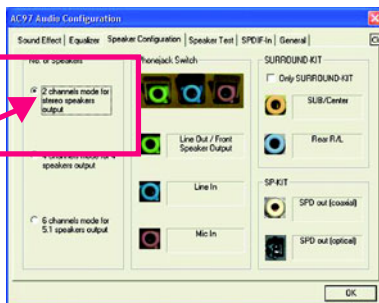
オーディオドライバをインストールすると、タスクバーに  アイコンが表示されます。Windowsのトレイからオーディオアイコン“Sound Effect”を選択してください。



手順3:

“Speaker Configuration”を選択し、“2 channels mode for stereo speakers output”を選択してください。

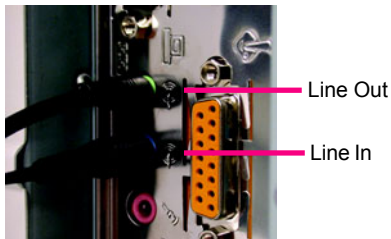
 2 channels mode for stereo speakers output




4チャンネル アナログオーディオ出力モード

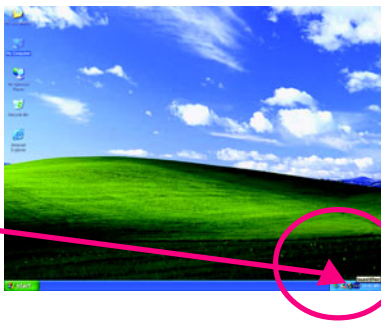
手順1:

前面チャンネルを“Line Out”へ、背面チャンネルを“Line In”へ接続してください。



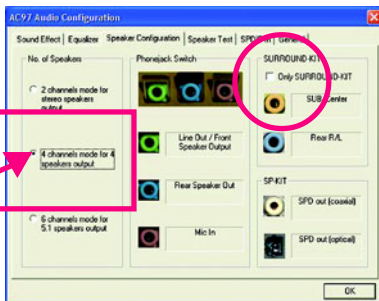
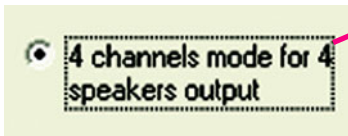
手順2:

オーディオドライバをインストールすると、タスクバーに  アイコンが表示されます。Windowsのトレイからオーディオアイコン“Sound Effect”を選択してください。

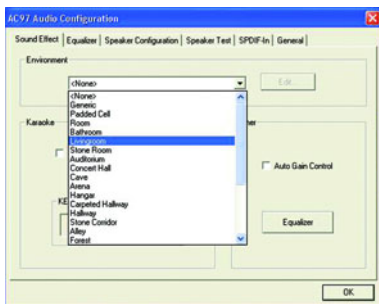


手順3:

“Speaker Configuration”を選択し、“4 channels for 4 speaker output”を選択してください。“Only SURROUND-KIT”を無効にし、“OK”を押してください。



“Environment setting”が“None”に設定されている場合、サウンドはステレオモード(2チャンネル出力)となります。4チャンネル出力用に別の設定を選択してください。

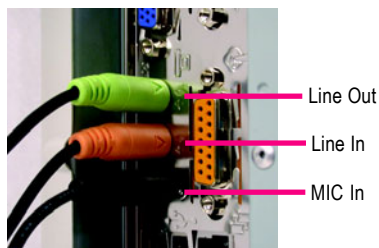


ベーシック6チャンネル アナログオーディオ出力モード


バックオーディオパネルを使いオーディオ出力へ接続してください。その他のモジュールは必要ありません。

手順1:

前面チャンネルを“Line Out”へ、背面チャンネルを“Line In”へ、中央/サブウーファーチャンネルを“MIC In”へ接続してください。



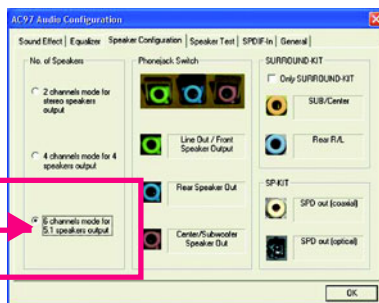
手順2:

オーディオドライバをインストールすると、タスクバーに  アイコンが表示されます。Windowsのトレイからオーディオアイコン“Sound Effect”を選択してください。



手順3:

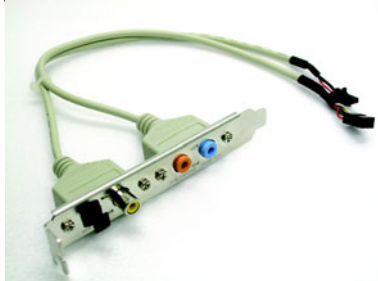
“Speaker Configuration”を選択し、“6 channels for 5.1 speaker output”を選択してください。“Only SURROUND-KIT”を無効にし、“OK”を押してください。



アドバンス6チャンネル アナログオーディオ出力モード (オーディオコンボキット、オプションデバイス使用):

(オーディオコンボキットはSPDIF出力ポートを提供: 光&同軸とSURROUND-KIT: 背面R/L & CEN/サブウーファー)

SURROUND-KITはアナログ出力から背面チャンネルと中央/サブウーファーチャンネルへアクセス。6チャンネル出力、Line In、MICが同時に必要な場合には、この方法が最適です。“SURROUND-KIT”はGIGABYTEの“Audio Combo Kit”に含まれています。(図を参照)



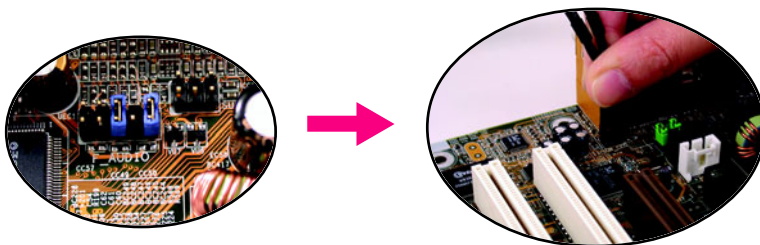
手順1:

“オーディオコンボキット”をケースの裏に挿入し、ネジで固定してください。



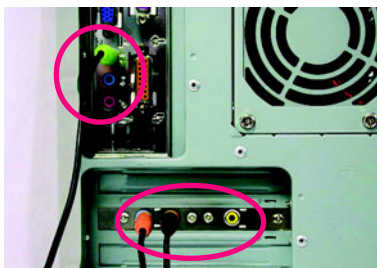
手順2:

“SURROUND-KIT”をマザーボードのSUR_CENに接続してください。



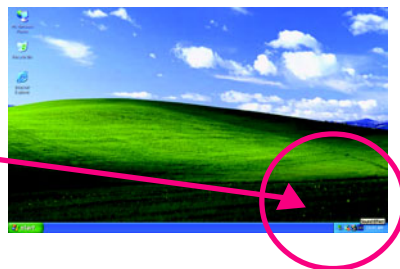
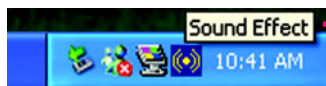
手順3:

前面チャンネルを背面オーディオパネルの“Line Out”に接続し、背面チャンネルをSURROUND-KITの背面R/Lに接続、中央/サブウーファーチャンネルをSURROUND-KITのSUB CENTERに接続してください。



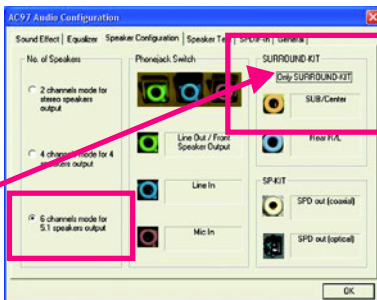
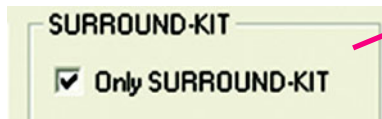
手順4:

Windowsのトレイからオーディオアイコン“Sound Effect”を選択してください。



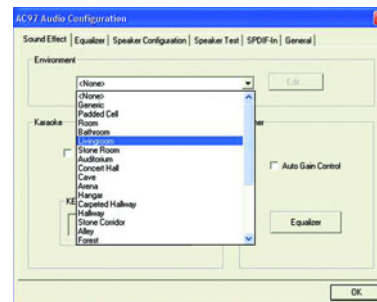
手順5:

“Speaker Configuration”を選択し、“6 channels for 5.1 speaker output”を選択してください。“Only SURROUND-KIT”を有効にし、“OK”を押してください。



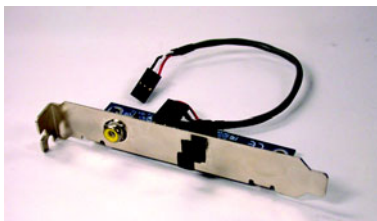
ベーシック&アドバンス6チャンネル アナログオーディオ出力モード メモ:

“Environment setting”が“None”に設定されている場合、サウンドはステレオモード(2チャンネル出力)となります。6チャンネル出力用に別の設定を選択してください。

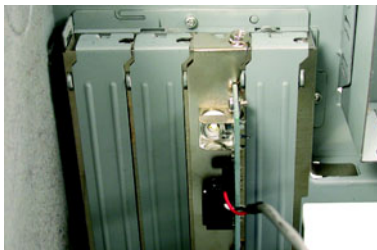


SPDIF出力デバイス(オプションデバイス)

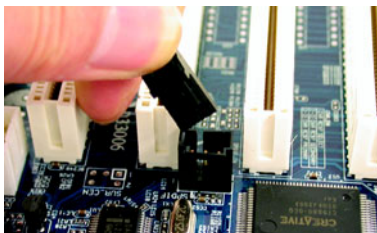
A “SPDIF出力”デバイスは、マザーボードに搭載されています。背面ブラケットのケーブルが提供されており、“SPDIF出力”コネクタに接続することができます。(図を参照)更にデコーダへ接続する場合は、背面ブラケットに同軸ケーブルと光ファイバー接続ポートが用意されています。



1. SPDIF出力デバイスをPCの背面ブラケットに接続し、ネジで固定してください。



2. Connect SPDIF wire to the motherboard.



3. 同軸または光ケーブル出力とSPDIFデコーダを接続してください。



第5章 付録

以下の図はWindows XPで表示されます。(CDドライババージョン1.0)
 マザーボード付録のドライバCDをCD-ROMドライブに挿入してください。CDは自動的に実行され、インストールガイドを表示します。自動実行されない場合は、“マイコンピュータ”からCD-ROMを選択し、setup.exeをダブルクリックしてください。

付録A:チップセットドライバのインストール

A-1: Intelチップセットソフトウェアのインストールユーティリティ



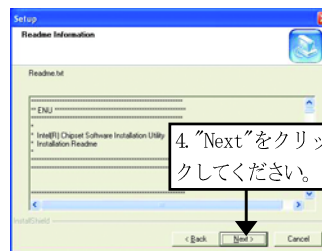
(1)



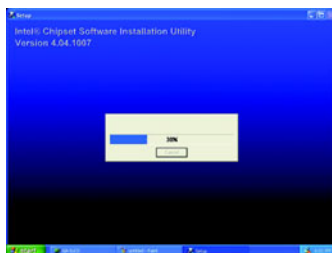
(2)



(3)



(4)



(5)



(6)